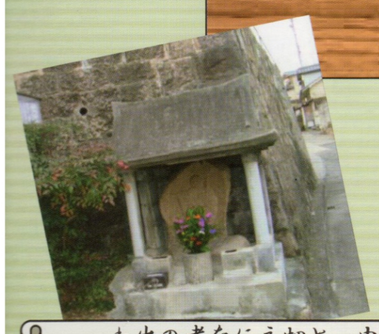
仁保～黄金山 まちあるきマップ



黄金伝説

「黄金山」という名前の由来は、観音寺の山号が「黄金山」といったこと、このあたり一帯の麦畑が黄金色に輝いて見えたこと、夕日に黄金色に染まって見えたことなど様々です。地元の古老の中には白南天の木の根元を掘ると黄金が出るという伝説まで伝わっています。

【南区七大伝説より】

「仁保（にほ）」の地名の沿革

「仁保（にほ）」の地名がいつ頃から使われていたのかは定かでありませんが、１２世紀頃の古文書に「遵保島（にほじま）」あるいは「香島（にほうのしま）」の記述がみえることから、相当古くから使われていたことが推察されます。

遵保島の名称からわかるように、古くは広島湾の島のひとつでしたが、寛文２年（1662 年）、東新開（東雲）の干拓工事の完成に伴い、陸地側と地続きとなりました。

明治２２年（1889 年）、明治政府による市町村制の施行により、旧仁保島、向洋、宇品島（明治 37 年（1904 年）広島市に編入。現在の元宇品）、似島、金輪島、峠島などを村域とする「仁保島村」が発足し、大正６年（1917 年）、「仁保村」に改称されました。

昭和４年（1929 年）に広島市と合併し、旧仁保村の本浦、渕崎の２集落、東雲の一部（現在の仁保新町一丁目・二丁目）を加えた地区が広島市仁保出張所の管轄区域とされたことから、黄金山の東側の麓が総称して「仁保」として認識されるようになり、また、「仁保町」（現在の仁保一丁目から四丁目）が町名として使用されました。

② 遵保姫神社（西本浦町）

神功皇后の故事にならって、島の鎮守として創建されたといわれる由緒ある神社です。

仁和元年（885 年）、豊前国宇佐八幡宮より分霊を勧請して正八幡宮と称し、江戸時代の文書には仁保島氏神本浦正八幡宮と記されています。

社殿は高い石段の上にあり、地形から考えて、昔は、神社の石段の下が海岸であったと思われます。神社の前の道路が仁保の旧道であり、ツツジで有名な「半べえ庭園」が隣接しています。

平成 19 年（2007 年）9月、不審火により全焼しましたが、平成 22 年（2010 年）に再建されました。

① 道標（東雲本町三丁目）

次のとおり記してあるようですが、読みにくくなっています（大正２年（1913 年）建立）。

右　広島駅・的場町　通
南　本浦観音寺・渕崎西福寺・向洋日宇那・仁保島村役場　通
左　大河宇品港・重砲兵連隊広島被服支廠・広島県立師範学校・広島県庁　通

③ 半べえ庭園（本浦町）

３００年の歴史をもつ、桜やツツジ、モミジなど、四季折々の花が楽しめる日本庭園です。

「半べえ」の名は、観光や食文化に造詣の深かった、四代目の当主「半兵衛」にちなんで命名されました。

④ 本浦説教場（東本浦町）

明治 32 年（1899 年）頃、地区住民の寄付と労力奉仕によって創建されたものです。地域住民の集会所のような場所で、葬儀や会議などに使われてきました。

⑤ 案内地蔵（本浦町）

毛利時代（1500 年代後半）からあったといわれ、観音寺と火葬場への道しるべとして立てられたという話や、昔この付近に出没したかわうそのいたずらを封じるために建てられたという話が伝わっています。

地蔵尊が観音寺の参道に向いて指さす姿に彫られているので、いつしか人々から案内地蔵と呼ばれるようになったといわれています。

昔はここから右に行くと大河峠でした。

仁保の歴史

西暦(年)	できごと	西暦(年)	できごと
392	遵保姫神社が皇后山(香護山)に鎮座される。	1597	玄清、廃寺となっていた西福寺（本浦）を再建した（真言宗）。その後、浄土真宗に改宗して渕崎に移る。
885	遵保姫神社に豊前国宇佐八幡宮より分霊を勧請し正八幡宮となる。	1615	徳川家康、１国１城制を定め、仁保島城も廃城となる。
1198	三浦大之助平重経が安芸国仁保島をもらう。その子孫三浦兵庫頭、仁保島城主となる（1591 年）。	1624	比治山、仁保島、矢賀の間の干潟が新開となる。渕崎の吉和屋平次郎が牡蠣の簀立て養殖を始める。
1221	武田信光安芸国守護職に任ぜられる。	1658	本浦の長三郎・御茶屋半三郎が、えびら海苔（広げて干した海苔）の製造を始める。
1470	この頃から無城主状態が続き、遵保姫神社が仕切る。	1662	東新開（東雲）、西新開（皆実）の開発が竣工し、陸続きとなる。
1495	金山城主武田元信が府中城主白井光胤に仁保島と領海権を安堵する。	1722	竈神社勧請
1498	白井氏への仁保島の安堵に激怒した大内氏が、仁保島奪還にかかる。大内方羽仁弥五郎軍と武田方白井光胤軍が相まみえる。羽仁弥五郎を打ち取り白井軍が勝利する(野山での合戦)。	1793	柞木に住吉神社勧請
1501	本浦に真言宗西福寺創立。	1865	柞木の村木新次郎、渡辺栄次郎、広島の平岡屋と共同で伊予から技術工を招き、渕崎字皿山で製陶業を始める。約１０年で廃業。
1524	大内義興自ら将として、一万旗をもって草津・仁保島の両城を攻め落とす（麦わらを敷いた谷）。	1873	童蒙舎(仁保小学校の前身）創立。
1526	府中城と仁保島城は、再び武田氏の支配下となる。	1874	仁富舎（仁保小学校の前身）創立。
1554	毛利元就、金山・己斐・桜尾・仁保等の城を攻略し占領する。	1893	仁保島高等小学校創立。翌年、校舎を渕崎字大町に新築移転。
1555	厳島の合戦。陶晴賢(大内氏の重臣)の武将三浦越中守房清、兵 700 余が軍船 15 隻に乗り、仁保島城に押し寄せ、南海岸(楠那)より上陸する。城将香川光景これを撃退。仁保島衆の瓢箪屋次郎五郎与三佐が活躍(押し切り谷での合戦)。	1917	仁保島村を仁保村と改める。
		1929	仁保村、広島市に編入合併。
		1964	仁保橋開通
		1965	東洋大橋開通
		1966	旧渕崎港が埋め立てられ、仁保保育園やマツダ研修センターが建設される。
1589	毛利輝元が広島に築城を決定し、「広島城」と名付ける。仁保島城は輝元公逗留用のお座敷として一層堅固に増築される。		黄金橋開通
		1981	仁保公民館開館

⑥ 母子像（本郷 新 作）（仁保新町二丁目）

昭和 61 年（1986 年）仁保小学校創立 115 周年記念として、卒業生有志や歴代ＰＴＡ会長有志によって設置されました。（本郷新氏は平和記念公園噴水前に設置されている「嵐の中の母子像」の作者。）

⑦ 明治天皇御大喪遥拝式場記念碑（仁保新町二丁目）

大正元年（1912 年）9月13日に明治天皇の大喪儀が行われた際、各地で一斉に遥拝（遥か遠くから拝むこと）式が行われたそうです。この碑は、遥拝式が行われたことを記すものと思われます。

⑧ 胡子神社（仁保新町二丁目）

遵保姫神社の御旅所

⑨ 仁保旧道（西本浦町～仁保四丁目）

この道は、かつては海岸線に沿って山麓をめぐる重要な生活道路として、由緒ある社寺や民家が続いていました。

その後も、その機能は伝承され、バスが通っていた時期もあります（昭和４年（1929 年）11 月～昭和 16 年（1941 年）５月。）。

また、本浦地区とともに市内で最も多くの土蔵が見られるのも、この道の特徴のひとつです。

戦争中の昭和 18 年（1943 年）頃、渕崎の入江や地先が埋め立てられ、戦後、現在のバス道路ができたことにより、幹線道路としての機能は失われましたが、生活道路として、また、通学路として重要な役割を果たしています。

⑩ 旧小学校跡（仁保一丁目）

明治 26 年（1893 年）、仁保島高等小学校が本浦尋常小学校内に設置され、その翌年この場所に移り、昭和 12 年（1937 年）に現在の場所に移転するまでの 43 年間存続しました。

なお、仁保島高等小学校は、明治 41 年（1908 年）に渕崎・本浦の二小学校を合併して仁保尋常高等小学校と改称し校地も拡張されましたが、そのときの校門は旧道に面していました。

⑪ 竈（かまど）神社（仁保一丁目）

昔、このあたりは海に突出して深い渕でした。そのため、船舶もよく出入りし、村落も早くから開けていました。享保７年（1722 年）８月 24 日に住民の幸福と家内安全、家門の繁栄とを祈念して竈神を勧請し、人々は「荒神さん」と称して尊崇しています。

⑫ 西福寺（仁保二丁目）

恵心院香嶋山（えしんいんこうとうざん）と号し本尊は阿弥陀仏立像（りゅう）です。文亀元年（1501 年）真言宗として本浦に創立されたのが開基といわれ、慶長２年（1597 年）北小路（きたこうじ）中納言輔道卿（すけみちきょう）の次男権丸（ごんまる）が出家して、法名玄清（げんせい）と名乗り諸国巡歴の途次、廃寺となっていた同寺を再建。その後、現在地の渕崎に移り、浄土真宗となりました。現在の本堂は、享保３年（1718 年）９月に再建されたと伝えられ、浄土真宗を開いた玄清以後、その子孫が住職を継承しています。本堂裏には、サツキで名高く、明治天皇が訪れたといわれる庭園があります。

⑬ 仁保の大銀杏（おおいちょう）（仁保三丁目）

渡部家の庭に立つ大銀杏は樹齢不詳ですが、巨木として江戸時代から有名で、原爆によって国泰寺の楠など市内の有名な巨木がほとんど失われた現在では、貴重な存在となっています。

なお、頼山陽が渡部家を訪れ、この大銀杏の巨木を漢詩に詠みこんでいることが、『仁保村志』に記されています。

⑭ 旧郵便局舎（仁保三丁目）

渕崎郵便局は、明治 10 年（1877 年）に開局し、明治 28 年（1895 年）、この局舎の約 100m南の仁保旧道沿いに局舎が設置されましたが、昭和９年（1934 年）に当地に移転し、昭和 57 年（1982 年）９月まで使用されました。

⑮ トノサン（殿様）川・湧水跡（仁保三丁目）

トノサン（殿様）川は、畳にして１枚半位、約３㎡の小さな泉でした。仁保島城の水源の一つだったようですが、城主が茶をたてるための水を汲んだともいわれています。

昔は、泉を川と呼んでいたことから、「殿様川」の名前が付けられたのではないかと思われます。澄んで、きれいな水が湧いていましたが、だんだん水が枯れてしまい、今は団地の一部となり、その姿はなくなりました。

⑯ 住吉神社（俗称 すみよしさん）（仁保四丁目）

昔、旧村役場付近に毎夜怪物が出て人々を苦しめていたので、ついに人々はそこを通行しなくなりました。困った人々は、社を建て、寛政５年（1793 年）住吉の神を勧請し、それから怪物は出なくなって、人々は大喜びし、以後敬神したといわれています。

平成 18 年（2006 年）、広島高速２号線の仁保ＩＣ建設により、移転を余儀なくされ、現在地に移りました。

⑰ 旧村役場跡（仁保四丁目）

明治 20 年（1887 年）、その頃渕崎単田丙 1117 番地と呼ばれていた場所に、戸長役場が設けられ、向洋の沢田七右衛門が初代戸長となりました。

昭和４年（1929 年）４月、広島市への合併と同時に廃止され、広島市役所の出張所となり、昭和 10 年（1935 年）まで使用されました。

⑱ 侍石跡（日宇那町）

昔、渕崎から日宇那に通じる、小赤壁と呼ばれていた海岸の一部に大きな岩があり、絶好の月見場所であったので、藩の侍たちがここに来て観月を楽しんでいました。その大岩を「侍石」と呼んだという話が残っています。

侍石は、海岸道路整備のため、粉砕されたり、地下に埋没しましたが、写真のような崖と比較的大きな岩は昭和 40 年（1965 年）頃にはまだ残っていました。

昭和 40 年（1965 年）代から始まった土地造成によって付近一帯が埋め立てられ、平成５年（1993 年）には団地が完成し、この岩も姿を消しています。

⑲ 観音寺（黄金山町）

仁保島城の城主であった三浦兵庫頭元忠が菩提寺として建立し、そのときの山号は黄金山でしたが、慶長年間（1596 年～1615 年）に梵潮山と改称されました。元忠が在勤したのは天正 19 年（1591 年）から慶長元年（1596 年）の期間であり、この寺の創建はその初期の頃と推定されます。

その後、江戸初期には衰微し、無住職となっていましたが、正保年間（1644 年～1647 年）に興禅寺の僧雲嶺によって再建されました。現在建物として残っているのは観音堂と鐘楼のみで、また、三浦元忠の墓といわれる墓碑が残っています。

⑳ 野山（古戦場）

このあたりを「野山」といい、たびたび戦場になりました。明応７年（1498 年）に大内軍は、羽仁弥五郎を先陣に攻撃を始めました。丹那側で激戦が行われましたが、白井光胤がこれを撃退しました。

また、弘治元年（1555 年）には、厳島の合戦で、陶軍の三浦房清の大軍と仁保島城の城将・香川光景軍の大激戦があり、朝から夕方まで戦い、陶軍を撃退しています。（「仁保の歴史」（年表）参照）

㉑ 千本桜

昭和 34 年（1959 年）、若き世代の象徴である皇太子（現在の天皇）のご成婚を祝し、かねてより企画されていた千本桜の植樹が広く呼びかけられ、各方面から多大な賛同を得て、約 4,200 本あまりに達しました。道路沿いの地主の皆さんの了解後、黄金山周辺の住民と関係者の手で、2,100 mに及ぶ登山道路に、１本ずつ植えていきました。

㉒ 黄金山

仁保のシンボルとして親しまれているこの山の本来の名称は城山といいます（「しろやま」とよむ説と「じょうざん」とよむ説があります。）。黄金山という別名の由来については、諸説があり、観音寺創建時の山号に黄金山とあることから、その頃からの名称とも考えられますが、正確な由来がはっきりしていないために、さまざまな伝説が生まれています。

㉓ 仁保島城跡

城の起源は不明ですが、室町時代の後期には既に実在し、府中白井氏の支配下におかれています。

この城は広島湾の重要拠点となっていたので、局地的な戦場となり、弘治元年（1555 年）の厳島の合戦の際、陶軍が来攻し、城将・香川光景が撃退したなどの話が伝わっています。現在広島テレビのテレビ塔跡のある山頂付近が、城の本丸があった場所です。遺構が消滅しているので、詳しい規模はわかりません。

㉔ 二の丸石垣跡

二の丸は、本丸の外周を取り囲み、敵から防衛するために使用されたものですが、仁保島城は山城であったので、頂上付近の平地が狭く、連郭式の曲輪をもった城になりました。

ここには、城主が住む館や、親族の屋敷がおかれていましたが、居住のために必要な様々な施設は、別に設けられていたものと思われます。

ねえ、知っとる？

チャチャボコチャン

笛や太鼓の音色から、「チャチャボコチャン」という名前が付けられたこの祭は、昭和 10 年（1935年）頃まで仁保・向洋地区の漁村に伝わっていた旧暦の七夕の行事です。

昭和62年（1987年）に50年ぶりに復活しましたが、それ以降は行われていません。

西福寺に孟子の末裔で赤穂義士の先祖の墓

中国の儒教思想家・孟子の61代目で、忠臣蔵で知られる赤穂義士・武林唯七の先祖である、武林治庵（中国名:孟二寛）の墓が西福寺にあります。孟二寛は、文禄の役の際渡来し、当初萩藩に医師として仕え、のちに広島の浅野藩に移ったとのことです。

二宮金次郎像

仁保小学校の正門を入って右側にあります。

像の台座には、昭和10年（1935年）に設置されたと記されています。

渕崎焼：慶応年間（1865年～1868年）に土地の有志が窯を設け、伊予から技術と土を導入して製陶を始めましたが、約10年で廃止となりました。窯があった皿山と呼ばれる場所は、現在の仁保南第三公園（仁保南一丁目）付近です。

～企画・編集・発行～
仁保郷土史会
広島市南区仁保新町一丁目８番６号
仁保公民館内
TEL：(082)281-1831　FAX(082)281-1886
平成 26 年（2014 年）３月
平成 25 年度区の魅力と活力向上推進事業補助金交付事業